

*** ある日の育児日記から ***

*** (19) ***

佐藤 和代 ***



有は一か月を過ぎ、抱っこひもにいられて一緒に外出できるようになりました。これで我が家の生活も落ちつくな、と思ったのですが…。

先日有のおしりに小さな腫れ物を発見。肛門をふさぐような腫れ方なので、これじゃウンチが出ないじゃないの、と小児科へ連れて行きました。

先生は一目見て「あ、これは穴よ、穴」。穴？有には生まれつき、肛門のわきに小さな穴があったらしい。そこが化膿したため発見できたというわけで、赤ん坊には時々あることだそうです。

大学病院の小児外科を紹介されて、翌日受診し

ました。そこで簡単な外科手術。これは五分とかからなかったのですが、あとが大変でした。何しろ大学病院ですから、消毒してもらっただけの通院でも、半日がかりなのです。その上、一度圭を連れていったら、次の日から圭が39度の発熱。うーん、疲れたのかな、それとも病院でうつされたかな。

とにかく、有を横抱きにして、（おしりに傷があるので抱っこひもに入られない！）、圭を乗せたベビーカーを片手でころがし、再び小児科へ。

これでは、落ちついた生活なんていつ戻るやら。当分ドタバタしそうな「赤ちゃんのいる暮らし」です。



圭、3歳、有、1か月、一緒に寝ると、こんなかんじです